

シリーズ

秘蔵写真

今は昔の林業

第7回

中部森林管理局技術普及課

井上 日呂登いのうえ ひろと

「造材」

今は昔、山村に暮らす人々とその生業としての林業を当局秘蔵の写真とともにご紹介します。

伐採した木はそのままの大きさでは動かしづらいことから、枝を払ったり、一定の長さに切る「玉切り」などの造材作業が行われます。



昭和初期頃の造材風景
(現在の木曾森林管理署管内)

造材される木のサイズは長さ四〜五メートルとあったところが多かったのですが、これは樹種や木の状態、時代や需要により異なります。特に大きな木の場合、節がなるべく出ないように利用したり、市場でなるべく価値が



昭和15年頃の斧による造材風景
(現在の南信森林管理署管内)

のこぎり 鋸を使って造材作業が行われている写真が多く残されていますが、古くは斧も使っていました。また、木材を割れにくくするために斧で端が丸められたり、運び出しやすいように樹皮が剥がされることもありました。

出るように造材するには、十分な経験が必要でした。



昭和30年代前半の造材風景
(旧長野営林局管内)

造材の風景についても、昭和三十年代に進んだチェーンソーの普及が変化をもたらしていききました。

ここで紹介している写真は、当局サイト「モノクロ森林紀行」で紹介しております。これは、カラー写真のない時代へ時を超えて！むかしの写真を紹介するサイトです。
当サイトへは、QRコードを読み込んでください。

